

令和5年度着任青森県藤崎町地域おこし協力隊募集に係る

活動内容（ミッション）

藤崎町が地域おこし協力隊に求める活動は次の内容です。

下記1～3のうち、「いずれかの分野に特に注力した活動」もしくは「複数の分野を組み合わせた活動」など、実際の活動のバランスは隊員個々のビジョンやロードマップ及びスキルの活かし方に沿った組み立てを行ってください。

1 観光地のない藤崎町に「暮らし観光」で誘客をする活動

「暮らし観光」とは、地元の人々に親しまれる食や文化やスポットを体験する、これまでの観光とは異なるスタイルの地域の楽しみ方です。藤崎町には従来の観光にまつわる名所旧跡や一大温泉地がなく、観光でビジネスをする動きがありませんでした。しかし、このところの暮らし観光の波は、藤崎町に新しい可能性をもたらしています。現在、これに共感した人々や団体が暮らし観光で藤崎町を楽しんでもらうための一歩を踏み出しはじめています。

このような活動に入り込んで、取り組みを推進するプレーヤーリーダーになっていただける方、新たな仕組みやコンテンツを発掘・開発して経営するプロデュース役を担っていただける方を求めます。藤崎町で頑張る人たちと共創しながら、より多くの人に藤崎町の暮らしや文化を体験してもらおうための仕掛けを一緒に進めていきましょう。

具体的な暮らし観光の取り組みは次のとおりです。

【藤崎町の暮らし観光の取り組み】

（1）あそべるりんごえん わんどおらんど

「りんご畑に囲まれるまち」と表現もされる藤崎町では、一方で「遊び場が少ない」という声もしばしば聞かれます。「それならば、町の象徴であるりんご畑で遊んでもらおう！昔のりんご農家の子どもたちのように、ただのりんご畑に遊びを発見してつくっていきこう！」という思いで、召しませ林檎吉田ファミリーファームの園主である吉田氏が、りんご園を体験して遊びたい人のために園地の一面を秘密基地的に開放してくれています。それが「あそべるりんごえん わんどおらんど」です。

そして、そんな吉田園主の思いに共感し、「一緒にあそべるりんごえんをつくろう！」と集まったメンバーが、住民団体「ふじさき APPLE アミューズメント」を立ち上げました。これまで藤崎町の助成金を活用して、「りんご畑にピザ窯をつくろうワークショップ」「もぎたてりんごでアップルパイづくりの日」「りんご畑で水鉄砲大会」「りんごのお花見ピクニック会」などのイベントを企画・運営し、わんどおらんどへの誘客プロモーションをサポートしています。

吉田園主としては、今後、イベント以外の個人・ファミリー・グループによる日常ユーズを広

げたく、ホームページのリニューアル等も手がけているところです。しかし、まだまだ「あそべるりんごえん」は認知されておらず、引き続き新規利用者を招くためのイベントユーズの提供等を行い、興味関心の拡大を手がけていくことも必要となっています。“今日はりんごえんで遊ぶ”という非日常のアミューズメントを“今日の遊びはりんごえん”という一歩日常に近いにアクティビティに落とし込み、普及をさせていきましょう。

吉田園主とタグを組み、ふじさき APPLE アミューズメントを動かしながら、活動をリードする人材を求めています。

<あそべるりんごえん わんどおらんど紹介ページ>

- ・ホームページ <https://wandolandapple.wixsite.com/fujisaki>
- ・Instagram <https://www.instagram.com/wandoland.apple/>



(2) ふじさきコンシェルジュ

藤崎町の農×食×観光の発信拠点として「ふじさき食彩テラス」があります。農産物直売所・地域産品を活用したレストラン・観光情報発信窓口を備えた施設です。ここで主に観光情報発信を担うのが「ふじさきコンシェルジュ」です。有名観光地のない藤崎町ですので、周辺の市町村を交えた観光情報を扱っていますが、本来ここで重要視したいのは藤崎町ならではの観光体験コンテンツの発信と顧客の獲得です。

藤崎町で活動する団体や人々による新たな暮らし観光のコンテンツを積極的に発信し、それらの問合せや予約窓口としてワンストップ機能を発揮したいところです。しかし、現在はマンパワー不足などによって、そこまでの機能強化に着手できていません。地域おこし協力隊として、藤崎町のコンテンツに触れる機会や仕組みの創出など、暮らし観光の利用環境充実に向けてもう一歩のところを手伝ってくれる人材が必要となっています。

<ふじさき食彩テラス紹介ページ>

- ・ホームページ <https://www.fujisaki-shokusai.com/>
- ・Instagram https://www.instagram.com/fujisaki_shokusai_terrace/



(3) cocofuji (ここふじ)

藤崎町の暮らし観光に携わり活動する団体や人々が集まって、活動状況や意見などの情報交換をするプラットフォームが「cocofuji (ここふじ)」です。現在は隔月で情報交換会を開催し、全体で地域の動きを共有しています。その他、これまで各団体や施設の情報発信サイトをまとめたポータルサイトの構築や、活動時のユニホームの作成など、個人や各団体では実装しにくい取り組みを手がけています。

藤崎町の暮らし観光を充実させていくためには、これらの意図を理解して参画する人を増やし、活動を活発化させていくことが必要となります。さらに、cocofuji では各団体や様々な人々がつながり、cocofuji をきっかけに新たな共創が始まる場としての機能が大いに期待されています。cocofuji に積極的に参画して、人や団体をつなぎ、新しい価値を生み出していけるプロデュース役

として活躍できる人材も求められています。

<cocofuji 紹介ページ>

- ・ 藤崎町ポータルサイト cocofuji <https://www.cocofuji.info/>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/profile.php?id=100085736114511>



(4) (参考) ナゾツク

藤崎町のおとなり平川市の元協力隊員の前職がなぞとき制作であったことをきっかけとして、「藤崎町に観光がないのなら、ブームになりつつある謎解きや宝探しゲームで、地域のスポットを巡りながら藤崎町の文化を体験してもらおう！」をコンセプトに、謎解き・宝探し好きの仲間が集まり、住民団体「ナゾツク」が立ち上がりました。

これまでに、藤崎町を巡る謎解きコンテンツを3冊制作販売し、他にも町広報や地域の各種施設と協力して、なぞとき宝さがし大会を開催しています。クリアのお宝には、地域ネタをふんだんに盛り込んだお手製バッジやキーホルダーをご当地ガチャとして制作・提供し、地元紙や地元テレビ局に取り上げられるなど好評を得ています。

<ナゾツク紹介ページ>

- ・ ホームページ <https://nazotsuku.wixsite.com/website>
- ・ Instagram <https://www.instagram.com/nazotsukufujisaki/>



(5) (参考) ふじさんぽの会

かつて藤崎町が実施していたご当地ふじさき検定をはじめとしたローカルガイド養成プログラムを経て、地域の暮らし観光を元気にしたいシニア世代が中心となって結成された“まちあるきガイドの会”です。

今では、自分たちで作成したまちあるきコースを案内する「藤崎まち歩きふじさんぽ」や、りんご農家の日常を体験する「りんご農家の美味しい休日」などの体験コンテンツを提供販売し、地域への新たな誘客をスタートさせました。

活動の展開とともに、若い世代のりんご農家や地域になじみの自転車屋さんをメンバーに巻き込み、まちあるき体験の中にもりんご作業体験やサイクリングを盛り込むなどとコンテンツの幅を広げつつあります。

<ふじさんぽの会紹介ページ>

- ・ 紹介サイト https://www.fujisaki-kanko.jp/supporting-people/machiaruki_guide.html
- ・ Instagram <https://www.instagram.com/fujisanponokai/>



2 通り過ぎるまち藤崎町に「ふじさき産品プロモーション」で誘客をする活動

「藤崎町は、〇〇に行くときに通ったことはあります」という会話は、町外の人に藤崎町の印象をたずねたときのリアクションあるあるです。藤崎町は津軽地方の交通の要衝であるため、どこに行くにも便利で、幸福度や暮らしやすさの住民評価が抜群のまちです。しかし、目立った観光名所等がないために、来訪者にとっては立ち寄ることへの印象が薄く、お出かけのときに通り過ぎるまちになっています。

町ではこの状況を改善するため、基幹産業である農産物に付加価値をつけて売り出しつつ、「届けます、ふじさき品質」をスローガンに食×農×観光で地域発信をするべく、元々の産直施設を食と観光の拠点施設「ふじさき食彩テラス」として整備し運営を開始しました。開業からしばらくは、マンパワーやノウハウの不足で、イベント誘客や情報発信などにしばらく注力できずにはいましたが、ここのところ地域おこし協力隊がその役割を担い始めて状況が好転してきています。

現役の隊員は自分たちの“得意”を活かしつつ、あるときは農家や商品を取材して発信し、あるときは新商品開発の相談役（アドバイザー）となり、あるときは「地元野菜のレシピコンテスト」を企画運営し、あるときはエンタメと食を盛り込んだイベントを仕掛けています。これにより、以前にはなかった「藤崎町が目的になるためのきっかけ」が積み重ねられています。これは、協力隊がミッションの一環としてふじさき食彩テラスを活躍の場とし、現場スタッフや仲間と協力して取り組んできた結果です。

今後もこの流れを促進させ、ふじさき食彩テラスに行けば「藤崎ならではの面白いものや美味しいものがある」という“ワクワク”を消費者に提供し、藤崎を“通り過ぎるまち”から“目的地となるまち”にしたいという大きな望みがあります。持ち前のスキルを活かし、先輩隊員とタッグを組んでさらなる新しい“ワクワク”を生み出し、その流れを承継発展させていただき取り組みにも期待をしています。

<青森県藤崎町地域おこしチーム Facebook ページ>

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100066354992030>



3 地域貢献（地域課題解決）をしながら「持ち前のスキル」で起業する活動

協力隊をきっかけに藤崎町に移住いただいた人材には、できるなら卒業後も地域に定住していただきたいと望んでいます。ただし、それには先立つものがが必要です。「藤崎町で暮らし続けるために、なにを生業にするのか？」は協力隊にとって大きなテーマです。実際に、協力隊活動のロードマップの3年目には、卒業後の自立に向けた基盤づくりが大きなミッションになると言われています。

もちろん、生業づくりの手段には「就職」と「起業」があります。このうち、就職は活動期間中に築いた人脈やスキルの売り込みをもとにして、卒業後に地元企業に参加（ジョイン）するということです。一方、起業は自らの持ち前のスキルを磨いて活用することで、卒業後の生業を自分で構築（ビルド）することです。このうち、期間中の活動ミッションとなりえるのは、「起

業」ということになります。協力隊のミッションは、地域協力活動（地域の困りごとや課題解決に役立つ活動）を行い、地域に貢献することです。こういった内容が認められれば、それが直接的に自分の卒業後の起業に向けた活動であっても、「どんどんやってください！」といわれることとなります。

この活動内容は言い換えれば「企画提案型のフリーミッション」とも表せます。基本的に地域貢献の要素があれば、協力隊からの企画は自由に実践できます。ただ、せっかくのフリーミッションであれば、ぜひ自分の手腕を存分に発揮して、地域貢献をしつつ生業づくりも進められる仕組みを追求してください。実際問題として、協力隊のミッションは表からみると「地域貢献活動」ですが、裏テーマとしては「卒業後の自立に向けた活動」も非常に大事なミッションです。地域で暮らし続けるための効率的な活動運営を町では応援します。

～地域貢献と起業活動を両立する例～

○先輩隊員の動き

- ・行政書士としての依頼を獲得するために、新商品開発の相談に乗りながら各種許認可取得の手続きのお手伝いをする。
- ・ふじさき産品のプロモーションの一環として、実家の農家のブドウを使用した新メニュー開発をパティシエとともに取り組み、首都圏への売り出しを図る。
- ・グラフィックデザイナーやイラストレーターとしてのスキルをPRするために、藤崎町のプロモーション媒体の制作に必要なデザインワークに参加協力する。

○その他一般的な動き

- ・まちの暮らしやすさを高めるため、住民交流を促進するサードプレイスの創出・運営を行う。
- ・宿泊施設のない地域で誘客や交流人口増加を促すため民泊やゲストハウスの運営に取り組む。
- ・地域で活躍する協力隊の受け皿を拡大するため、協力隊募集や活動支援のコーディネートを行う中間支援組織を構築して運営する。
- ・行政の実施するイベントや事業運営を請け負って実施する企画会社を設立して経営する。
- ・地域経済の活性化にむけ、地域に新たな仕事を生み出すためのインキュベーションを行う仕組みや場所（新業態を試験営業できるチャレンジショップの運営等）を創出し運営する。

以上が藤崎町の地域おこし協力隊募集に係る活動内容（ミッション）です。

ミッションに共感する部分がある方は、ぜひ藤崎町の協力隊への応募をご検討ください。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。